

次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）に対する意見の回答

※〔種類〕 1. 要求水準を下げよ、2. 要求水準を上げよ、3. 修文せよ、4. 確認事項、5. その他

項	ドキュメント名	ページ	項目番号	種類	仕様書記載内容	意 見	意見理由	回答
1	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	3	1.7 作業スケジュール	4	令和8年12月～3月 結合テスト 令和9年4～6月 総合テスト 令和9年7月 教育 令和9年8～11月 受入テスト支援	総合テストはお客様実環境であるガバメントクラウドにおいて実施する必要があります。ガバメントクラウドの利用開始時期はいつ頃となりますでしょうか。ガバメントクラウド環境の利用開始が令和9年度からとなる場合、デジタル庁による環境の払い出しや、クラウド環境の設定作業も必要となるため、仕様書で提示された左記のスケジュールで総合テスト、受入テストは開始できないものと考えますが、ガバメントクラウド提供開始時期に併せて受入テスト期間の短縮等は調整可能という認識でよろしいでしょうか。	作業スケジュールに関する整合性の確認のため	ガバメントクラウド利用開始は2027(令和9)年4月を予定しております。調達仕様書に記載したスケジュールは想定であり、クラウド環境の払い出しや、設定作業の進捗状況によっては、総合テスト、受入テストの期間について調整が有り得るとの認識で結構です。
2	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	6	3.1 基本的な留意事項(6)	4	研究所システムを利用した研究所業務内容、情報システムに係る政府方針及び、GSS端末を利用したリモートデスクトップ接続、外部環境と直接接続を行わない構成、セキュリティ強化等の研究所システムの特殊性並びに、新旧システムの非互換項目が与える影響範囲等を十分把握、理解したうえで設計を行うこと。	(6)「GSS端末を利用したリモートデスクトップ接続」とあるが、次期研究所システムでは、どのような用途でリモートデスクトップ接続を利用する想定でしょうか。次期景気統計システムはガバメントクラウドにサーバレス構成でWebシステムとして構築されるため、GSS端末から直接Webアクセスで利用することを想定しています。次期研究所システム内もしくはガバメントクラウド内のマシンにリモートデスクトップ接続をしてからWebアクセスを行うことを意図していますでしょうか。	アクセス元となる端末環境の数により、動作確認・テスト量が変わってくるため	当該記載内容は、基本的留意事項として、現行研究所システムにおける構成等を理解するとともに、新旧の景気統計システムのアーキテクチャの違いを十分把握、理解したうえで設計を行う必要性について明記したものです。 次期研究所システム内もしくはガバメントクラウド内のマシンにリモートデスクトップ接続をしてからWebアクセスを行うことを意図するものではありません。
3	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	6	3.1 基本的な留意事項(7)	3	GSS、研究所システム等の他調達システムとの物理的な責任分界点及び、作業に係る責任分界点を十分認識したうえで作業を行うこと。	他調達システムとの物理的な責任分界点、作業分担が本調達仕様書に明確に示されていないため、(別紙G)「2.5 責任分界点」で示されているような、責任分界点の図式を本調達仕様書においても記載していただけないでしょうか。 3.2.3(2)や3.2.4(5)の記載から、景気統計システムの実行環境に関する設計、アプリケーションのデプロイに関する設定は本調達で実施するものと認識しましたが、それ以外のガバメントクラウドサービスの設計・設定については、原則として、「研究所システム設計・構築及び運用業務」調達で実施する認識でよいでしょうか。 例えば以下のような分担を想定しています。 ■本調達範囲（例） ・コンテナ定義（使用するコンテナイメージ、環境変数等）の指定 ・タスクに割り当てるリソースの指定 ・アプリケーションログの監視要件（監視すべきメッセージ）の指定 ・アプリケーションのデプロイに関する設定実施 ■研究所システム設計・構築及び運用業務範囲（例） ・アプリ要件に応じたクラウド設定の実施 ・GSSに接続するためのネットワーク設計、設定	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	ご意見を受け、本調達における業務と研究所システム設計・構築及び運用業務における作業分担について、調達仕様書の「3.2.3(2)」を以下のとおり修文します。 (2)設計の対象は、次期景気統計システムとしてアプリケーションプログラムのみならず、実行環境となるクラウドサービスも対象に含めること。設計対象のクラウドサービスはアプリケーションプログラムの実行に必要な関連サービスのみとし、各種パラメータや監視項目などを別途調達する「研究所システム設計・構築及び運用業務」事業者に提供すること。

項	ドキュメント名	ページ	項目番号	種類	仕様書記載内容	意見	意見理由	回答
4	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	10	3.2.5 テスト (6)	4	サーバ室等へ機器を導入する場合、その後に総合テストを行い、受入テストが十分に実施でき、次期研究所システムの安定、かつ円滑な稼働を確認すること。	本調達にはハードウェア、ソフトウェアの納入は含まれないと考えますので、左記仕様は「研究所システム設計・構築及び運用業務」調達の要件になると考えます。 本調達向けの要件として修文する場合、以下の記載となると考えます。 「研究所システム設計・構築及び運用業務」調達で導入された機器から次期景気統計システムを利用する場合、「研究所システム設計・構築及び運用業務」調達による機器導入後、総合テストを行い、受入テストが十分に実施でき、次期研究所システムの安定、かつ円滑な稼働を確認すること。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	ご意見を受け、ご提示いただいた修正案のとおり修文いたします。
5	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	10	3.2.6 移行	4	現行研究所システム機器等との並行運用の必要性を含め、具体的な移行方法等を検討すること。なお、次期研究所システムへの移行に当たり、本調達仕様書等に記載した機能以外の機器等が一時的に必要となる場合には、受注者の費用負担において用意すること。	次期研究所システム内での移行作業に必要となる作業端末等の設備は、貸与いただける認識でよいでしょうか。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	その認識で問題ありません。
6	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	10	3.2.8 引継ぎ	3	研究所の指定する運用・保守事業者へに引継ぎを行うこと。	運用・保守事業者への引継ぎ期間は、本調達の契約期間内で実施することが分かるよう、「1.7 作業スケジュール」に引継ぎに関するスケジュールも記載することが望ましいのではないのでしょうか。	作業スケジュールに関する整合性の確認のため	ご意見を受け、「1.7 作業スケジュール」に引継ぎに関するスケジュールを記載いたします。
7	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	11	3.2.7 教育	3	研究所職員を対象として、次期研究所システムを利用する上で必要となる操作方法等について、利用者マニュアルを作成し、研究所の承認を得ること。	研究所システムの利用者マニュアルは「研究所システム設計・構築及び運用業務」調達の範疇ではないのでしょうか。「次期景気統計システム」の利用者マニュアルを意図しているのであれば、以下の記載に修文いただけますでしょうか。 ----- 研究所職員を対象として、次期景気統計システムを利用する上で必要となる操作方法等について、利用者マニュアルを作成し、研究所の承認を得ること。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	ご意見を受け、ご提示いただいた修正案のとおり修文いたします。
8	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	11	3.2.7 教育	3	研究所による次期研究所システムに対する規程（利用規約及び情報セキュリティ関係規定等）の作成を支援し、その内容について研究所職員（利用者・管理者等）に対して教育を行うこと。	「次期研究所システムに対する規程」に関する支援は、「研究所システムPJMO支援業務」調達の範疇ではないのでしょうか。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	ご意見を受け、以下のとおり修文いたします。 ----- 研究所による次期研究所システムに対する規程（利用規約及び情報セキュリティ関係規定等）のうち、景気統計システムに係る内容について、必要に応じ、その作成を支援すること。
9	次期景気統計システムに係る設計・開発業務調達仕様書（案）	18	5.3 作業場所等	4	本業務の作業場所及び作業にあたり必要となる設備、備品及び消耗品等については、受注者の責任において用意すること。また、必要に応じ研究所が作業場所の現地確認を実施することができるものとする。	本調達の設計・開発役務で使用する作業場所、開発環境については左記の通りと認識しておりますが、ガバメントクラウド・次期研究所システム等のお客様環境で必要となる設備については、お客様にてご用意いただく認識でよろしいでしょうか。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	その認識で問題ありません。

項	ドキュメント名	ページ	項目番号	種類	仕様書記載内容	意 見	意見理由	回答
10	次期景気統計システムに係る設計・開発業務要件定義書（案）	8	3.3.1 システム方式に関する全体方針	4	次期景気統計システムのAPIはJava言語を用いて設計・開発を行うこと。利用するバージョンは直近のLTSとすること。業務期間中に新しいLTSがリリースされた場合には、研究所とバージョンアップの対応について協議すること。	JDKはクラウドベンダー提供のOpenJDKの採用も許容される認識でよいでしょうか。また、提供ベンダーによっては必ずしも最新のLTSのサポート期間が一番長いとは限らないため、利用するバージョンについては、「直近のLTS」（最新のLTS）に限定せず、協議により決定する認識でよいでしょうか。その場合、「利用するバージョンは、原則として直近のLTSとすること」などの表現に見直すことが望ましいと考えます。	開発にあたっての前提条件の確認のため	ご意見を受け、ご提示いただいた修正案のとおり修文いたします。但し、サポート期間の長さのみにより旧バージョンを選択するのではなく、出来る限り新しいLTSを選択することが望ましいと考えております。
11	次期景気統計システムに係る設計・開発業務要件定義書（案）	10	3.7 拡張性に関する事項	3	① ハードウェア及びソフトウェアのリソースについて、拡張性を有した構成とすること。	本調達にはハードウェア、ソフトウェアの納入は含まれない認識ですが、左記記載はオンプレミスシステムを調達する前提の表現となっています。クラウドリソースに関する記載に表現を改めることが望ましいのではないのでしょうか。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	ご意見を受け、以下のとおり修文いたします。 ----- ①ハードウェア及びソフトウェアのリソースが拡張された場合に影響のない、スケーラブルな構成とすること。
12	次期景気統計システムに係る設計・開発業務要件定義書（案）	10	3.10 継続性に関する事項	4	③ バックアップの取得は自動化し、成否について管理者へ通知する機能を有すること。なお、管理者により手動でバックアップの取得が可能であること。 ④ 次期景気統計システムでは、データ保全の観点から異なったロケーションにバックアップのレプリケーションを行うこと。	左記要件について、ガバメントクラウドのマネージドサービスにより実現をするのか、次期景気統計システムの機能にて実現をするのか、想定をご教授ください。	調達範囲に対する認識齟齬を発生させないため	データベースのフルバックアップやバックアップ先のレプリケーションについてはマネージドサービスにより実現する想定です。
13	次期景気統計システムに係る設計・開発業務要件定義書（案）	17	3.14.2 移行における留意事項 (3) システム移行に係る留意事項	3	② 次期景気統計システムの移行に当たっては、以下の影響を受けるおそれがあるため、可能な限り研究所システムのシステム移行に伴う影響を受けない移行方式を検討し、採用すること。	「以下の影響」について、具体的な記載がないため、記載をお願いいたします	開発にあたっての前提条件の確認のため	記載の誤りにつき、「以下の影響を受けるおそれがあるため、」を削除いたします。
14	次期景気統計システムに係る設計・開発業務要件定義書（案）	14	3.12.1 次期景気統計システム構成	3	① 次期景気統計システムはガバメントクラウドを利用する。	次期景気統計システムで検証対象とする端末環境は、GSS端末の想定でよいでしょうか。	役務見積りの前提条件に相違が出た場合、公正な調達とならないため	その認識で問題ありません。 3.12.1 ②として以下のとおり追記します。 ----- ②次期景気統計システムはGSS端末を介して利用する。